【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	基里小学校

1　前年度 評価結果の概要	・地域人材を活用し、様々な体験活動や交流活動を工夫することができた。次年度は、キャリア教育に繋がる体験活動や交流活動となるよう更に工夫していきたい。 ・児童の主体的な学びを実現するために校内研究を軸にして教職員が切磋琢磨しながら授業改善に取り組んできた。次年度は、更に児童の学力向上をめざす。 ・PTAや学校運営協議会との連携を図るとともに、見直した教育計画や校時表を基にして積極的に業務改善を行った。昨年度より時間外勤務時間の削減ができた。次年度は、更に働きやすい魅力ある学校となるよう業務改善を図りたい。 ・「5・8交流」「よろしく先輩」「文化発表会参観」など児童生徒の交流活動ができた。授業の相互参観や研究会参加など、小中学校の教職員が共に学ぶ場を設けることもできた。次年度は、研究発表会開催とあわせ、小中一貫教育の一層の充実を図りたい。
2　学校教育目標	**「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成** **～　みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしよう　～**
3　本年度の重点目標	**①児童の主体的な学びの実現と学力の向上** **②心の教育の充実による豊かな心の育成** **③小中一貫教育とコミュニティ・スクールの充実**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が問い立て、解決することを通して、主体的・対話的に学ぶことを目指した授業力改善	○児童が問いを立て、解決する場を設定するような授業改善に取り組んでいる教員90%以上。 ○自分で問いを立て、問いの解決を目指して学習に取り組むことができる児童70%以上。	・校内研究を中心として、問いを軸とした授業づくりの在り方を研究し、児童が主体的に学び、考える楽しさを味わうことができる授業の充実を図る。 ・学習の振り返りにおいて、全校共通の項目（「きざとっこ」）で行う。		・		・		・
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師90%以上 ●アンケートにおいて、「困ったことや悩みがあったときに話せる人がいる」と答えた児童85%以上	・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・何でも話せる人間関係づくりに努め、各学級でなかよし宣言を考えたり人権標語を作成したりすることで、人権について考える機会をもち、思いやりの心につなげる。		・		・		・
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答える児童90%以上。 ●いじめの防止、事案への対応について、組織的な対応ができていると答える教師85%以上。	・生活アンケートの回答を確認し、いじめにつながる事案について対応する。 ・いじめの認知・覚知した場合、いじめ対策委員会を開き、早急に対応する。		・		・		・
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとしたり、一人一人のよさが認められたりするような教育活動を仕組む。 ・年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにキャリアパスポートを活用する。家庭に持ち帰り一言コメントを保護者に書いてもらうなど、保護者が知る機会を増やす。 ・目標をもって中学校に進学するための交流や体験活動を可能な限り行っていく。		・		・		・
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●休み時間に屋外で運動する日が、１週間で3日以上の児童65%以上	・体育委員会を中心に、外遊びを推奨するイベントを企画・実施してみんなで運動することの楽しさを味わうことができる場を設定する。 ・外遊びを推奨する掲示物を校内に掲示して、児童の意欲喚起を図る。		・		・		・
	○望ましい生活習慣の形成	○1日の睡眠時間が１～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上が80%以上	・保健便りや校内の掲示物を通じて、睡眠の大切さを児童に呼びかける。		・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議や行事の精選、ICT利活用による校務の効率化を図る。 ・通常の施錠時刻を昨年度より15分早め、退勤時刻を意識した働き方を推進する。		・		・		・
●特別支援教育の充実	○学習環境の整備	○児童が落ちついて学校生活を送るための個別の場の各学級の設置率90%以上	・各学級に、一斉指導の場と別に個別のスペースを用意し、「一人学び」「クールダウン」を行うことができるようにする。		・		・		・

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上発信した学級率80%以上	・年1回以上、授業参観等で教科「日本語」の授業を公開する。 ・学年通信や学級通信で、教科「日本語」に関わる情報を学期に1回以上載せる。		・		・		・
○地域と共にある学校の推進	○コミュニティ・スクールの活用	○アンケートにおいて「コミュニティ・スクールとして推進していることを知っている」と回答した保護者80%以上、「学校生活を地域の方に支えてもらっている」と回答した児童80%以上。	・学校行事等において、積極的に学校支援の依頼を行う。 ・学校運営協議会活用による学校行事等について、積極的に知らせていく。		・		・		・

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・